

**「DXの思考法」セミナーシリーズ 各論編：
国際データ共有・連携を通じた競争力強化と
社会的価値への対応**

総論：グローバル社会の実現に向けた「新機軸」

経済構造が変化中、これまでの通商政策・対外経済政策を見直し、「経済産業政策の新機軸」では以下の方向性にて対応することで、グローバル社会を実現。

旧機軸

「経済産業政策の新機軸」

経済構造

- 国内生産した製品を輸出することにより稼ぐモデル
- コスト競争力重視
- 大企業を中心とする輸出中心・中小企業は国内大企業との取引中心
- 企業経営・社会は日本人前提の構造（外国人材・資本活用は想定せず）。



- 対外直接投資を含めた海外展開モデル
- 高付加価値型ビジネスモデル：現地への深いマーケットイン、現地企業との協業、製品の差別化・高付加価値化
- 中堅・中小企業、スタートアップなど多様な企業が様々な形態でグローバル経営。
- 企業経営・社会全体がグローバル化（内外一体）

通商政策

- 国際的な合意形成を前提に、WTO中心の多角的貿易体制重視
- 関税引き下げを含む経済連携協定の推進
- 経済安全保障：機微技術の範囲の限定、国籍による管理体制、サプライチェーンリスクへの不十分な対応



- WTO中心の多角的貿易システムを堅持しつつ、WTOの機能不全に直面する中、WTOを補完するアプローチも検討
- 環境・人権等の共通価値への対応や、企業・社会のグローバル化を含めた内外一体の通商政策の徹底
- 経済連携協定の推進と一体で、アジア大のデータ共有・連携や高度人材活用の基盤整備によるアジアと一体になった成長戦略の実現
- 企業・大学が直面するリスクや国際動向の分析、国家として真に維持・強化すべき技術・生産基盤への支援などを含めた、総合的・包括的な経済安全保障の推進

「データ」と「人材」を柱とした、アジア地域大サプライチェーンの高度化に向けて（案）

政策ミッション

「強靱で、持続可能で、競争力のある地域大のサプライチェーン」を構築する

ステークホルダー
が共有する
理念・規範

産官学・主要国※による、「**価値対応**」と「**競争力**」の好循環に向けた行動規範（原則）

①強靱性、②持続可能性・包摂性、③透明性・信頼性 等

※東南アジア・インド・豪州：世界の成長センター。地域大のサプライチェーン構築に向けた共創パートナー

中国：予見可能で安定的な投資・事業環境への転換が求められる巨大経済圏

アメリカ・欧州：基本的な価値観を共有する有志国。競争領域・協調領域を踏まえた相互互惠関係を構築

目指すべき
サプライチェーン像

新たな社会「**価値**」に対応したSC

例えば、**デジタル技術**により環境や人権への配慮が可視化されたサプライチェーン

事業環境・需要の変化に柔軟に

対応できる「**競争力**」あるSC

例えば、**デジタル技術**を活用し、各種変化に柔軟に対応するサプライチェーン（サービス・ソリューション提供も含む）

求められる
能力

企業においては、ダイナミック・ケイパビリティを獲得し、グローバルに競争力ある事業を展開する
経営能力

各国政府においては、物流インフラ整備・貿易
手続円滑化を進めると共に、SC高度化に不可
欠なデータルール等を整備する能力

「データ」と「人材」を柱とした具体的な取組の実施（検討中のものを含む）

「**価値×データ活用**」の
ユースケース確立

データ共有等の
アーキテクチャ設計

グローバルに多様な
人材を育成・登用す
る企業文化の醸成

アジア人材※の惹きつけ
※ワーカー層のみならず、イノベ
ティブな経営人材・IT人材を含
む

取組の
方向性

- ・継続的なサイクルを担保する**協議会設置**（SCRFを発展）
- ・ユースケース創出に向け、関心企業への補助
- ・**データ共有における標準等の設計**（GAIAX等を参考）とアジア大での相互連携
- ・国際物流・貿易の円滑化を促進
- ・原則に基づく民間投資促進に向け**公的金融と連携**
- ・**政府系貿易・投資促進機関**による連携

- ・日アジアの人材コネクティビティ**協議会設置**
- ・日アジア大学の**ジョイントディグリープログラム組成支援**
- ・日本企業による**アジアデジタル企業への出向を支援**
- ・日本企業による**オンラインインターンシップの活用促進**
- ・**アジア人材活用型のプロジェクト組成**を支援
- ・日本企業によるアジアの大学への**寄付講座の設置支援**

サプライチェーン強靱化を通じたアジア有志国との連携の強化

- サプライチェーン強靱化に向けた官民の取組として、①信頼性あるサプライチェーン原則の確立、②ユースケース創出・共有を通じた現場レベルでのアップグレード促進、を両輪で進める。
- 同時に、サイバーフィジカルサプライチェーン協議会（仮称）を設立し、アジアにおけるサプライチェーンのデータ共有・連携を促進するための基盤（ハード・ソフト）創設に向けた検討を開始。

(1) サプライチェーン強靱化に向けた国際規範の形成

サプライチェーンに関する規範を国際的に設定することで、**信頼に足るサプライチェーンパートナーが備えるべき要件**を具体化。

＜サプライチェーンに関する規範・原則(例)＞

○強靱性

- ①強靱化の前提としてのサプライチェーンの可視化
- ②生産拠点の多元化等による途絶リスク対応力確保

○透明性と信頼性

- ①サプライチェーントレーザビリティの確保
- ②開示情報・データの信頼性の確保
- ③不透明な政府関与の排除

○持続可能性と包摂性

- ①気候変動への対応
- ②不当労働排除

(2) データ連携を通じたサプライチェーンのアップグレード

データ連携を進めることで、日本企業の競争力強化及び環境・人権等への対応を実現するとともに、**日アジアの有志国連携を具現化**

サプライチェーン1.0(As-Is)



サプライチェーンデータ・システム共にバラバラ

サプライチェーン2.0(To-Be)

